

# 方言を教材にした表現活動の展開

## ——「信州弁の日(その2)」のまとめを踏まえて——

大橋 敦夫・斎藤 直人

### はじめに

令和元年度に行われた本学、上田女子短期大学総合文化研究所・大会(2019.6.15)は、「信州弁の日(その2)」をテーマとした。平成29年度、同テーマによる開催(2017.7.1)に続くものである(注1)。以下に、当日の概要を報告・記録し、それらを踏まえて、方言を教材にした表現活動の展開について考察する。

本稿の構成は、以下のとおりである。

- 1 概要報告……………プログラムの紹介
- 2 方言調査の報告……………学生アンケートの分析
- 3 方言を教材にした表現活動の展開……………パワーポイントの有効的な活用法
- 4 まとめ

### 1. 概要報告

まず、当日のプログラムを以下に掲げる。

#### I 基調講演(注2)

方言研究への誘い：長谷川由香氏

(法政大学グローバル研究センター講師／

『長野県方言辞典』(信濃毎日新聞社 2010・2013)編集委員)

#### II 私のマチとコトバ

□♪松本・伊那・佐久・善光寺、四つの平は 方言の宝庫

[中信]諏訪(本学学生)

[南信]飯田(本学学生)

[東信]上田(本学学生)

[北信]長野(本学学生)

☐日本は広い

[福井]勝山(本学学生)

☐世界は広い

[中国]中国語の7大方言(外国人特別研究生2名)

### Ⅲ 朗読・語り

民話「小泉小太郎」「でーらぼっちの山かつぎ」(本学学生2名)

企画趣旨は、前回と基調は変わらず、

一堂に会した参加者が信州方言に思いをはせ、コトバについて弁じ、考える一日を過ごすことを主眼とします。

というものである。

まずは、方言研究のすそ野が広がることを企図し、調査経験豊かな長谷川由香氏に方言研究の面白さを語っていただいた。今後、多くの学生が調査・研究に乗り出してくれることを期待している。

続く有志の学生諸君によるプレゼンテーションは、地元のお勧めスポットや、俚言・気づかれにくい方言の紹介に取り組んでもらった。

企画趣旨に添い、長野県に限らず、日本の内外に目を向けることを意図したラインナップである。

また、朗読・語りは、地元の民話を素材にし、課外活動等で経験豊富な学生がその腕前を披露してくれた。

一般来場者(50名ほど)も含め、熱心に聞き入った様子がうかがえた。

## 2. 方言調査の報告

「信州弁の日(その2)」開催に先立ち、今回も、総合文化学科在学生を対象に、アンケート調査を実施した(2019.5-6)。質問項目は、次の3点である。

- 1 私の好きな信州の言葉(言葉と、その理由も)
- 2 短大の生活で、友人が使っていて意味がよくわからなかった信州方言はありますか

3 友人に向けての会話で、あなたが使って相手に通じなかった言葉はありますか。  
 まず、1についてであるが、これまでの催しとの経年変化を見たい(表1参照)。

■表1 上田女子短期大学生の好きな「信州の言葉」

| ◇信州弁サミット<br>(2012) | ◇信州方言フェスタ<br>(2014) | ◇信州弁の日<br>(2017) | ◇信州弁の日(その2)<br>(2019) |
|--------------------|---------------------|------------------|-----------------------|
| 94人                | 98人                 | 86人              | 96人                   |
| ずく 10              | ずく 14               | するしない 20         | ずく 20                 |
| ずくなし 5             | こわい 6               | ずく 12            | ずくだせ 5                |
| するしない 5            | とぶ 5                | ずくなし 5           | するしない 5               |
| いただきました 2          | するしない 4             | こわい 3            | ずくなし 2                |
| べちゃる 2             | ほける 3               | とぶ 3             | とぶ 2                  |
| へら 2               | ～かや 3               | つかる 2            | おしかけ 2                |
| こわい 2              | しみる 2               | ほける 2            | ナシ 8                  |
| ～かや 2              | とびっくら 2             | NA 8             | NA 34                 |
| NA 11              | ～だに 2               |                  |                       |
|                    | NA 2                |                  |                       |

今回も、「ずく」が圧倒的である。類語の「ずくだせ」「ずくなし」も加えれば、約3割が支持している。これまでの回でも上位を占めており、安定した位置にある。

一方、NA(回答なし)および「ナシ」の多さが目立つ。また、挙げられている語の種類も少ない。

しかし、3の「友人に向けての会話で通じなかった言葉」という問いには、「こずむ」「しんの」「なから」「べと」「へら」「水くれ」「洗濯物をよせる」等が挙げられており、日常生活で方言(俚言・気づかれにくい方言)を使わないということではないようである。

また、2の問いでは、「ナシ」という回答が47で、半数近い。同世代ということもあり、理解が行き届いている様子がうかがえる。挙げられた例語は、「するしない」「机をつる」などで、地域分布に偏りのあるものである。

### 3. 方言を教材にした表現活動の展開

プログラムの「Ⅱ 私のマチとコトバ」では、学生による出身地域の文化と方言についてプレゼンテーションを行った。その際に事前指導として行ったパワーポイントのスライド作成について概説する。

#### ①「伝わりにくいスライド」と「伝わるスライド」

パワーポイントのスライド作成には、いくつかの要点がある。なぜならば、スライドは口頭発表の際に、発表内容を視覚的に伝えるものであるため、情報量が多いと「伝わりにくいスライド」になってしまうからだ。それでは、プレゼンテーション内容が「伝わりにくいスライド」の特徴を3点あげる。

Ⅰ 文章が記載(文字が多い、または口頭発表内容をそのまま記載している)

Ⅱ 背景色とフォントカラーのアンバランス

Ⅲ 写真やイラスト、図表、アニメーションがなく単調

換言すれば、文字数を極力減らし、かつ視聴覚資料の添付やアニメーションを用いることがスライド作成の基本といえるだろう。これを踏まえて、以下5点について指導を行った。

- ・ 説明文は体言止めにすること。
- ・ スライドの背景色を紺色にすること。
- ・ フォントカラーを白で統一すること。
- ・ 写真・画像・アニメーションを用いること。
- ・ インデント(文字下げ)を行うこと。
- ・ 発表内容の確認(①文化、②方言の順番でスライド作成)。

指導の際に、文字数の多い(発表原稿を記載した)スライドを学生に提示した。その後、同一内容のスライドを体言止めの短文にして、かつ必要に応じて助詞を省いたものを提示した。また、スライドの背景色は、写真や画像が引き立つように紺色を採用するように指導した。また、フォントカラーは白で指定した。

このようにスライドのフォーマットを詳細に指示することで、発表者各々のスライドに統一感を待たせ、聴衆にも分かりやすい構成になる。

学生が作成した「マチ」と「方言」のスライドをいくつか紹介する。

## ② 学生による作成スライドの一例「私のマチ」について

- ・長野県の東信地方に位置付けられる「上田市」の紹介である。

上田城跡公園にて現存する櫓や、城下町にあたる柳町の紹介が行われた。



- ・南信地方「飯田市」は、人形の町として全国的に有名である。

また、焼き肉の町として、食文化の紹介も行った。



- ・外国人特別研究生による広東省の紹介では、食文化や観光スポットなど取り上げた。



## ③ 学生による作成スライドの一例「私のコトバ」について

- ・紺色の背景色と、白色のフォントの組み合わせは、比較的明るい室内でもフォントが読みやすい傾向がある。

| 東信地方の方言         |  | ※上田市の方言例 |  |
|-----------------|--|----------|--|
| 方言              |  | 標準語      |  |
| ドンドロ・ドンドコ       |  | 滝口       |  |
| ヨメサンコ           |  | おままごと    |  |
| ツグラ             |  | 幼児かご     |  |
| テックリカエル・テックリケール |  | ひっくりかえる  |  |
| オクナンシ           |  | 〜ください    |  |
| ヤッチヨシイ          |  | うるさい     |  |
| ゴマント            |  | すごくたくさん  |  |
| ドコラ             |  | …あたり     |  |

  

| 方言           |  | 標準語       |  |
|--------------|--|-----------|--|
| カンタ・カンタロー    |  | コオロギ      |  |
| イソンデ         |  | 急いで       |  |
| カツンデ         |  | 担いで       |  |
| ビリクツツ        |  | 最劣等       |  |
| オドケル         |  | 驚く        |  |
| イカズ          |  | 行こう       |  |
| ソーダラズ        |  | そうだろう     |  |
| キノーナ         |  | 昨日        |  |
| ハンデ          |  | 頑張って      |  |
| アレツバカ・アレツババカ |  | あんなに少しばかり |  |
| ソベル・ネソベル     |  | 寝る        |  |

  

| 飯田弁   |   | 標準語 |  |
|-------|---|-----|--|
| ・な    | ⇒ | ね   |  |
| ・だに   | ⇒ | だよ  |  |
| ・だら   | ⇒ | でしょ |  |
| ・だもんで | ⇒ | だから |  |

  

| 飯田弁     |   | 標準語      |  |
|---------|---|----------|--|
| ・みやましい  | ⇒ | すばらしい、立派 |  |
| ・はあるかぶり | ⇒ | 久しぶり     |  |
| ・えらい    | ⇒ | 大変だ、しんどい |  |
| ・おる     | ⇒ | いる       |  |
| ・つる     | ⇒ | 一緒に遊ぶ    |  |

  

| 湘方言 | 標準語           | 長砂方言        |
|-----|---------------|-------------|
| 四   | si            | si-         |
| 妻   | Qizi (妻子)     | Tangke (堂客) |
| 女の子 | Nvhaizi (女孩子) | Meiduo (妹多) |

  

| 客家方言   | 標準語        | 四川方言        |
|--------|------------|-------------|
| ご飯を食べる | Chifan(吃饭) | Cifan(吃饭)   |
| 足      | Jiao(脚)    | Jiober(脚板儿) |

  

| 呉方言   | 標準語            | 上海方言           |
|-------|----------------|----------------|
| こんにちは | Nihao (你好)     | Nongho (依好)    |
| 知ってる  | Zhidaoma (知道吗) | Xiaodefa (晓得伐) |

  

| 閩方言 | 標準語          | 閩方言         |
|-----|--------------|-------------|
| 電話  | Dianhua (电话) | Dianwa (电话) |
| 携帯  | Shouji (手机)  | Chugi (手机)  |

## 4. まとめ

共通語化が進む現代、信州の地もその例外ではない。未来の地域を背負う学生たちの言語生活はいかなるものになるのか。その一端を今回のアンケート結果に見る思いがする。

すなわち、気質に関わる語は、不滅ではないかということである。「ずくなし(=怠け者)」にならぬよう、「ずく(=やる気・根気)」を出して、日々の生活を過ごすのが信

州人の真骨頂である。

では、その「ずく」とは、なんぞや、ということになると、説明に窮する。気力とも根気とも言えるような気がするが、しかし、それだけでは何か言い足りないような思いがする。

第三者に、自分の思いを過不足なく伝えるためには、様々な工夫が必要である。ITの利活用の時代でもあれば、それらも十分に活用すべきである。

その実践例を今回は提示した。学生諸君のその後の成長を見守りつつ、今後の企画を練っていききたい。

(注)

1 関連の拙稿として、次の2点がある。

大橋敦夫・佐藤 厚『『信州弁サミット』のまとめ』『観光文化研究所 所報』第11号  
(上田女子短期大学 2013.3)

大橋敦夫「方言を教材にした総合学習の展開——「信州弁の日」のまとめを踏まえて——」『総合文化研究所 所報 學海』第4号(上田女子短期大学 2018.3)

2 長谷川由香氏の講演内容は、本誌次号(第7号 2021.3)に掲載予定。

(付記)

本稿の執筆分担は、次のとおりである。

はじめに・1……………大橋

2……………大橋

3……………斎藤

4……………大橋・斎藤